

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあられる時津小



↑こちらからも↑

令和5年6月1日（木） 発行人：校長 森内 秀学

「任せる」の後ろ側

「どうする？」と判断をゆだねられたり、「頼むぞ！」と任せられたりすると、人は自然と責任感が湧き、やる気（たい）が芽生えてくるものです。



左の写真は、4年生の理科の授業。豆電球をもっと明るく点けるための乾電池のつなげ方を考える場面です。つなぎ方を確認し、先生がして見せるのかと思いきや、直前で手はストップ。「さあ、ここから先はどうなるか、自分で確かめましょう！」と笑う教師に憎まれ口を叩きながら急いで席に戻る子どもの顔は、もう笑顔いっぱいです。

一方、右の写真は、第1回代表委員会の様子。「時津小をよりよくするために頑張ることを決めよう」という議題でした。たくさん意見が出る中、議長が似た意見をすり合わせて絞り込んだり、みんなに同意を求めたりしながら、会はスムーズに進んでいきました。最後まで、教師の出番はありませんでした。



任せるというのは、勇気のいる指導です。丸投げと違うのは、裏で教師が「見守る」「手伝う」「教える」など、いつでも支援できるよう準備し、様子を観察しているところです。これがあるから、子どもたちは安心して、自分たちの力で新しいことに挑戦できるのです。

見守られ、任せられ、子どもたちは、運動会後もしっかり成長しています。



行政から見守られています

窓から学校のそばの川をのぞくと、船に乗ったり歩いたりして、雨で流れ着いた草木を取り除いている役場の方々がありました。災害を防ぐ取組は、子どもの命も守ります。

来週から水泳指導！その前に…

予定では明日がプール掃除。来週から水泳指導です。その前に、今年も手伝いに来ていただきました。村本 篤（あつし）さん(右)。本校の保護者です。雨の降る中、仕事の合間を縫い、1日かけて、ジェット噴射器で泥やコケを洗い流していただきました。経営されているお店は、本校の「あんしんメール」の協賛事務所です。保護者も含めて地域の方の協力というのは、本当にありがたいですね。

